

平成26年度調査研究事業

女性会員の職場環境に関するアンケート

(公社) 秋田県診療放射線技師会 企画委員会

【目的】

(公社) 秋田県診療放射線技師会において平成26年11月現在58名の女性会員が在籍している。今後女性の活躍が期待される中、「女性技師の働きやすい職場環境の問題と課題」を調査する。

【方法】

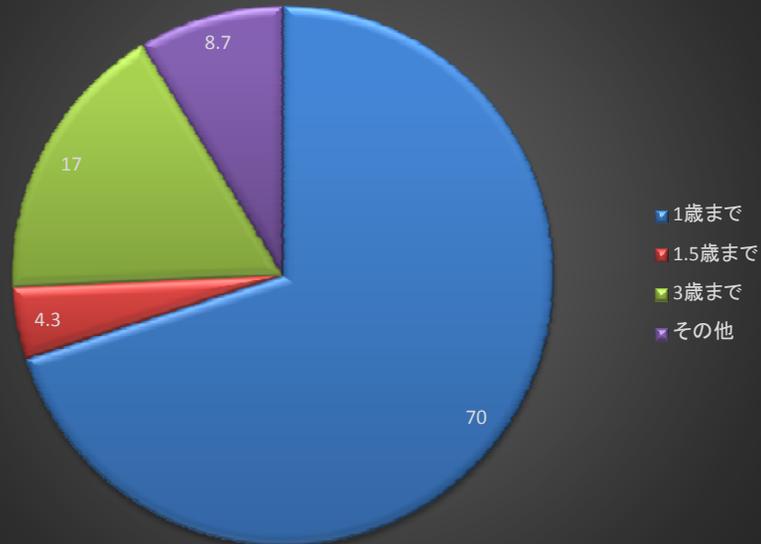
所属長と女性技師にアンケートによる調査

所属長へのアンケート（女性技師の在籍する）

配布数	30
回収数	25
回収率	83.3%

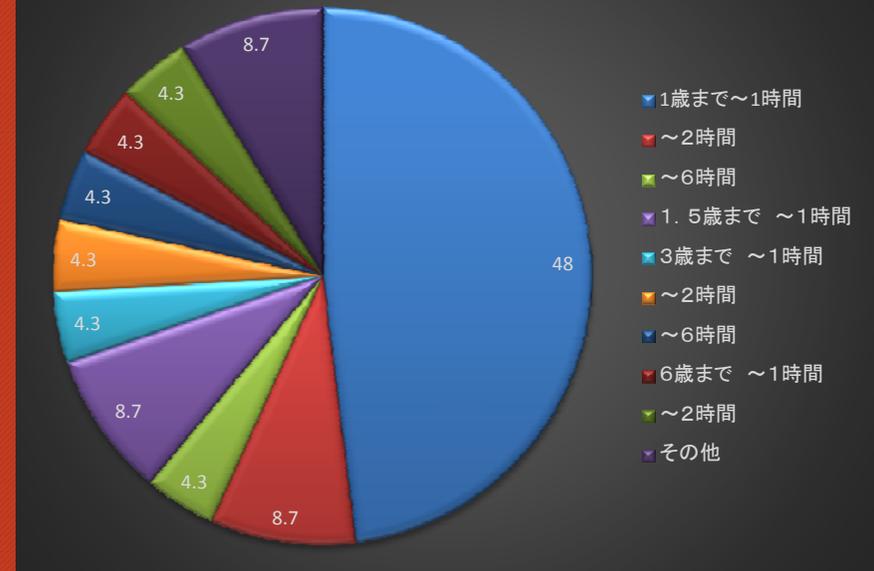
【結果】

職場の育休期間



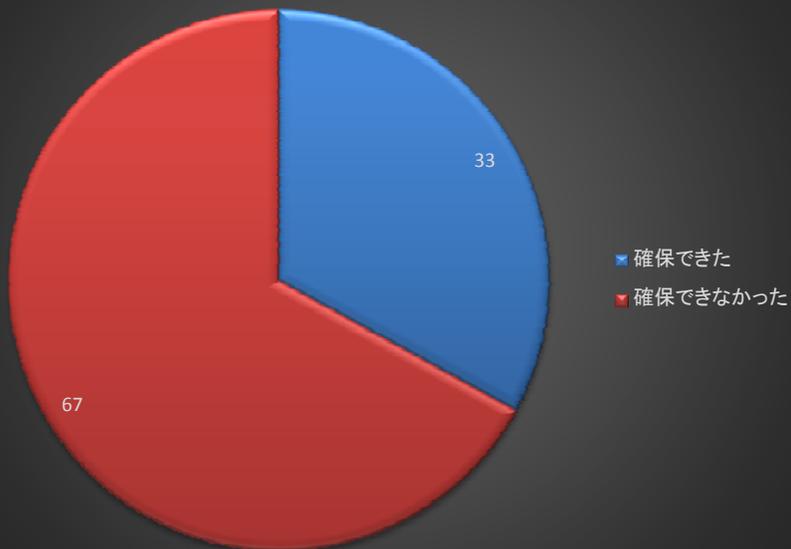
職場の育休期間は7割で1歳まで、公務員は3歳までとなっている。

職場の育児時間



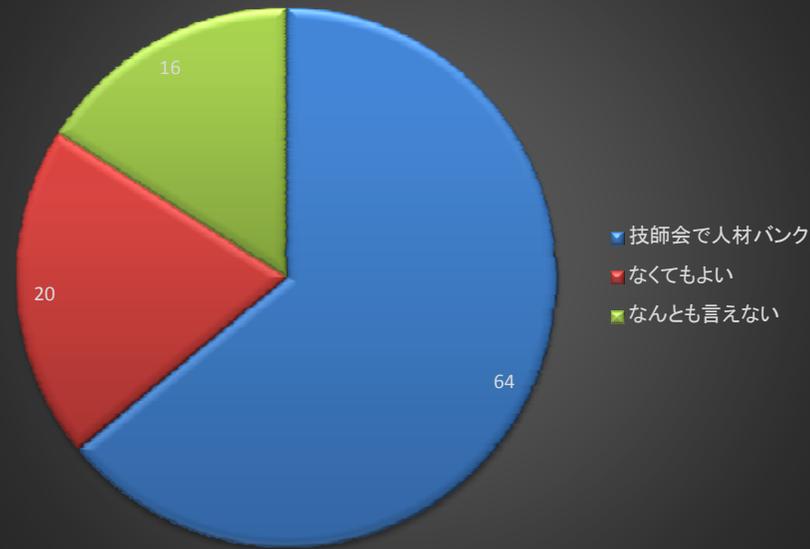
育児時間は約半数が1歳までの1時間となっている。

育休代替要員確保



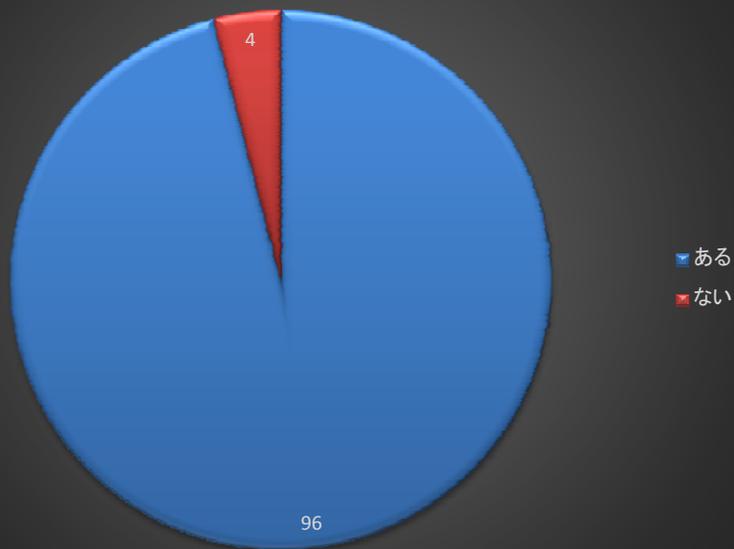
2/3が育休の代替要員を確保できておらず、その理由は女性技師の代替要員が見つからない、現有人数でやることになっている、確保したとしても慣れたところにやめることになる等。

代替要員確保方法



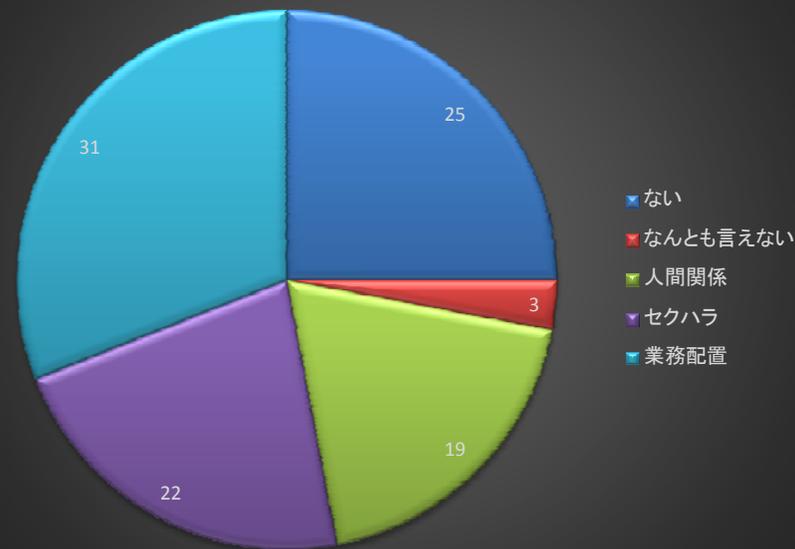
2/3の所属長が技師会の人材バンクを望んでいるが、左記理由から現実に利用するのか、現在離職中の技師がどれだけバンクに登録するかは未知数である。

女性技師のメリット



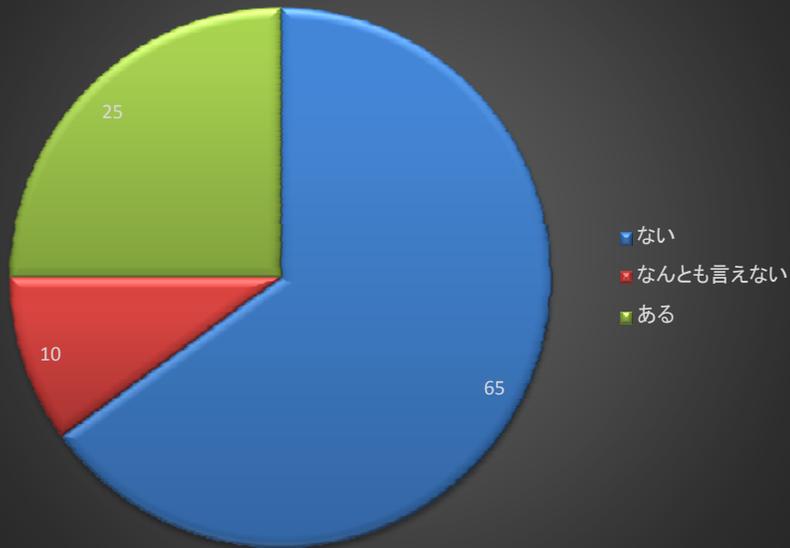
ほとんどの所属長が女性技師がいることのメリットがあると回答している。特にMMGやHSGなどの検査に女性を指名する患者がいること、女性特有の患者接遇に優れていることなどがあげられる。

女性技師への配慮



妊娠中、育児中の勤務体制、ポータブル撮影などカ仕事での配慮。
一方で、技師としてのプライドは男性と同等であると思うので特別扱いはいかがなものか。

女性技師に望むこと



【ない】

女性技師だからという理由で望むことはない

【ある】

母性保護に関することは別だが、女性技師という理由だけで業務を拒むのはしないでほしい。

MMGだけでなく他のモダリティにも興味をもってもらいたい。

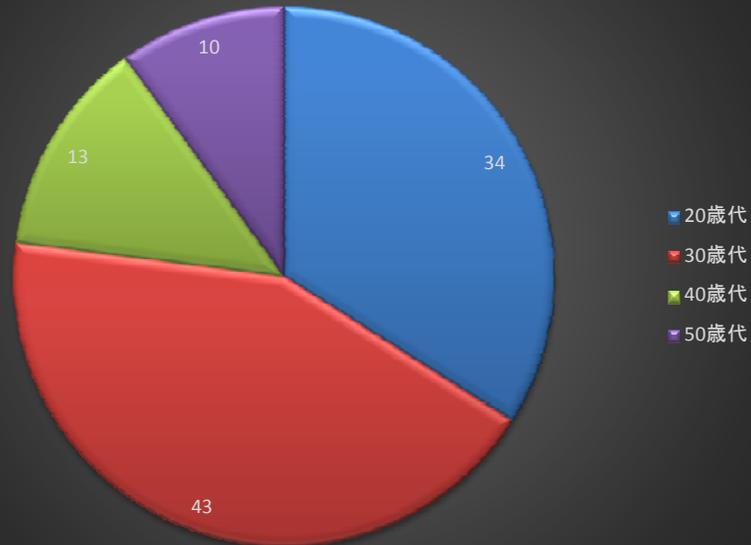
気分のばらつきをなくし素直に撮影してほしい。

女性特有の優しさを持ってもらいたい。

女性技師へのアンケート

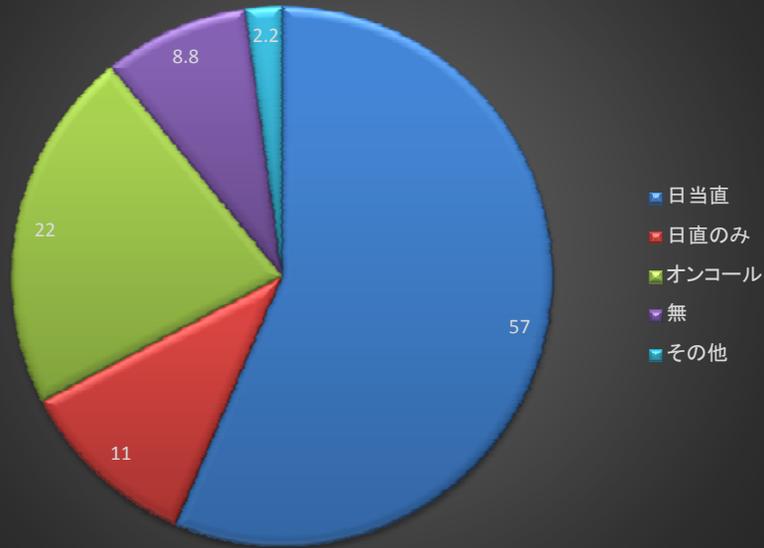
配布数	59
回収数	47
回収率	79.7%

年代構成



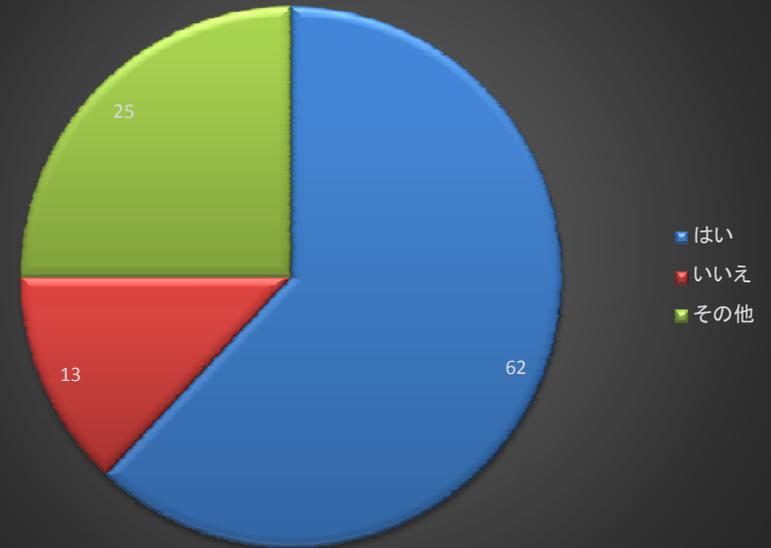
10数年前より女性技師の採用が増えたことうかがえる。
全員常勤採用となっている。

日当直



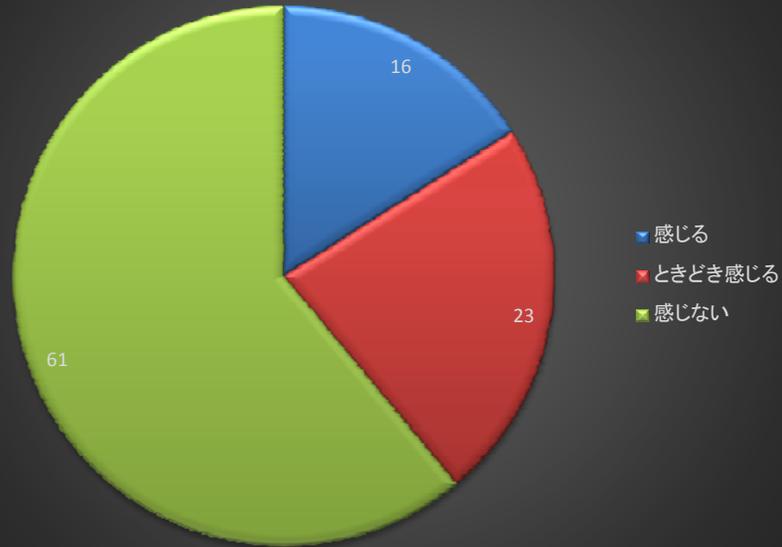
90%が日当直やオンコールに対応しており、男性技師と同様に救急業務に従事している。
一方で女性用当直室はほとんどなく、女性用更衣室は半数しかなかった。

定年まで働けるか



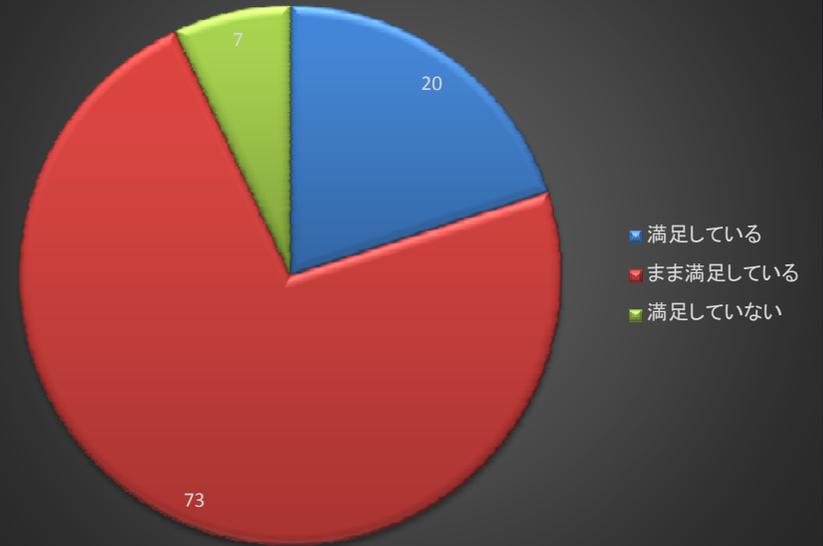
働く意欲はあるが今後の家庭状況が変われば分らない、体力的にきつい。
現在独身者は今後結婚、出産などの状況によって今は分らないと回答。

待遇に男女差を感じるか



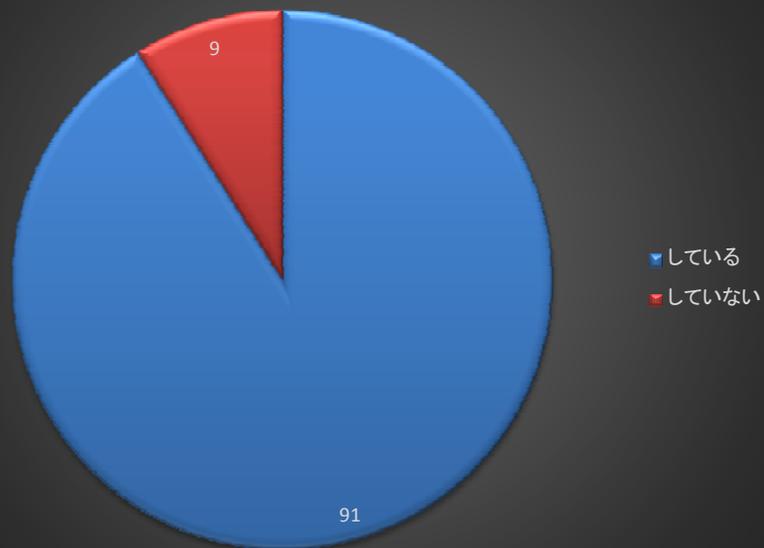
40%になんらかの形で男女の待遇差を感じており、力仕事や家庭の都合の休みなどで配慮されていると感じている。一方同じ業務内容、業務量で特に優遇されているわけではないと感じている人も多い。

現在の仕事に満足



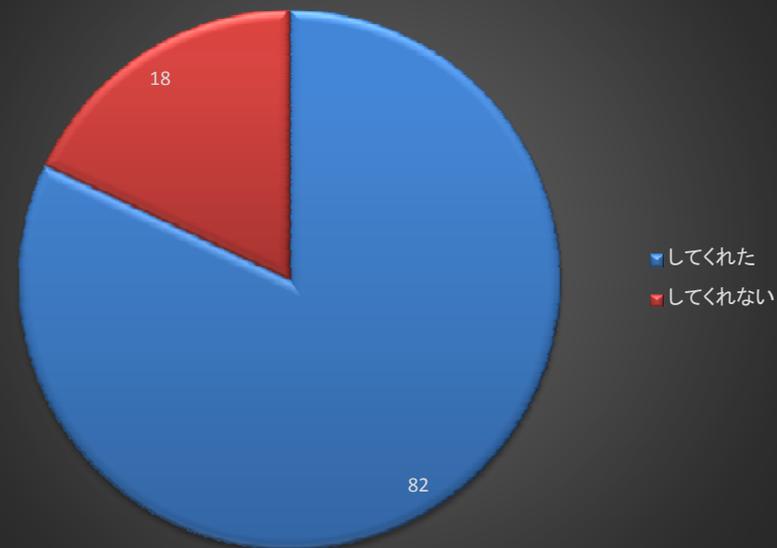
MMG優先で業務を行っているため他のモダリティに関わる機会が少ないとの不満が少数にあるが、大多数が使命感に燃えやりがいを感じている。

女性技師を望む検査の対応



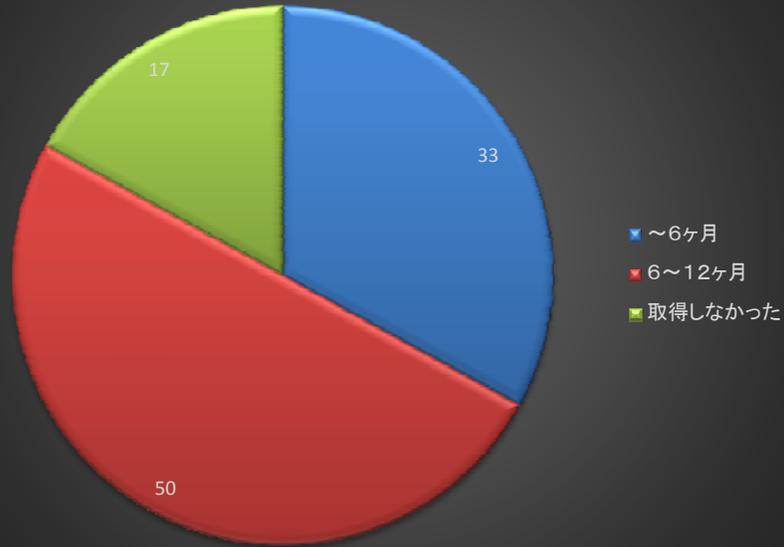
MMG、MRマンモ、HSGを女性技師が対応している施設が多い。

妊娠中の業務配慮



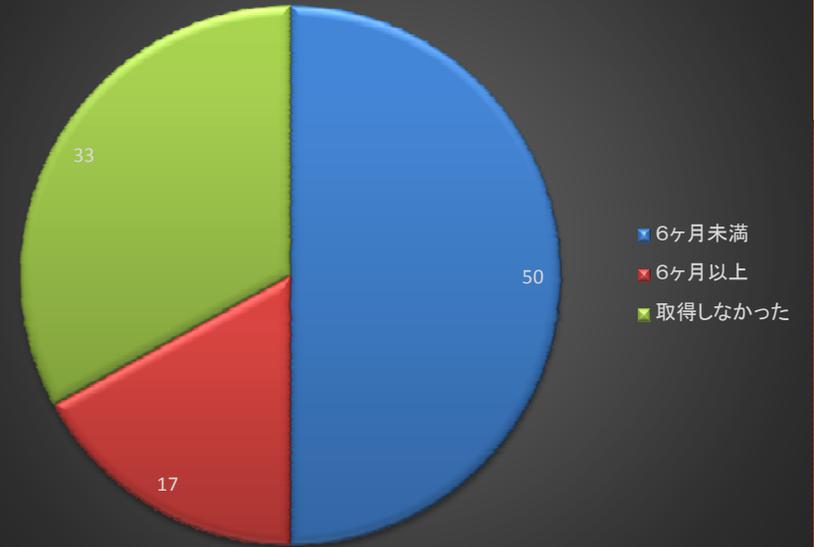
妊娠中は被ばくする可能性があるポータブル、イメージ業務から外れたり、当直や土日当番から外れるなど配慮がみられる。

実際取得した育休期間



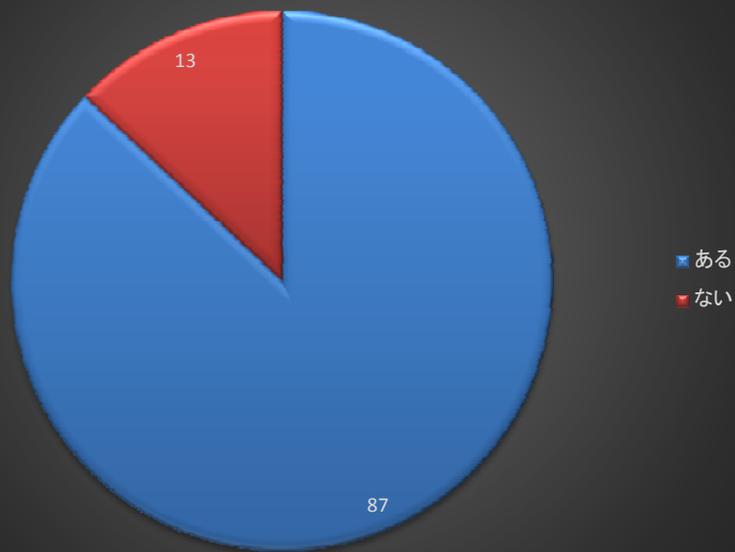
制度として3年まで取得可能な施設もあるが、実際には1年以下の取得になっている。長期間休めない、収入が減るなどが理由か。

実際取得した育児時間



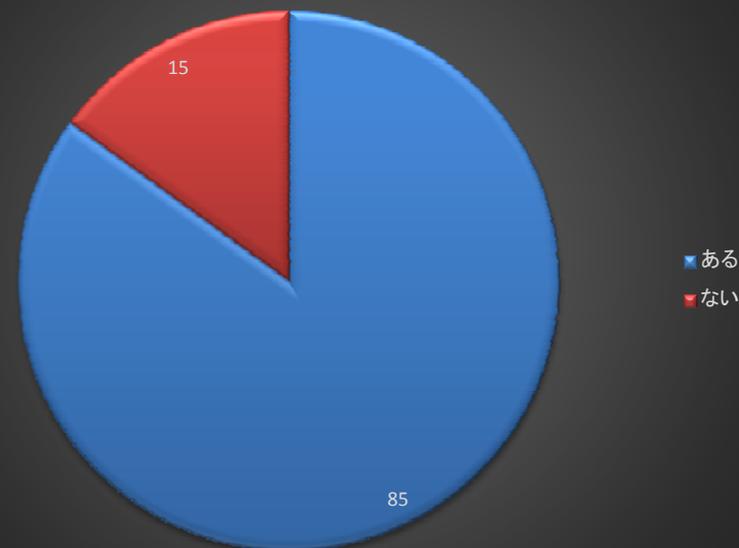
育児時間は半数が6か月取得しているが、3人に1人は取得していなかった。

勉強できる環境



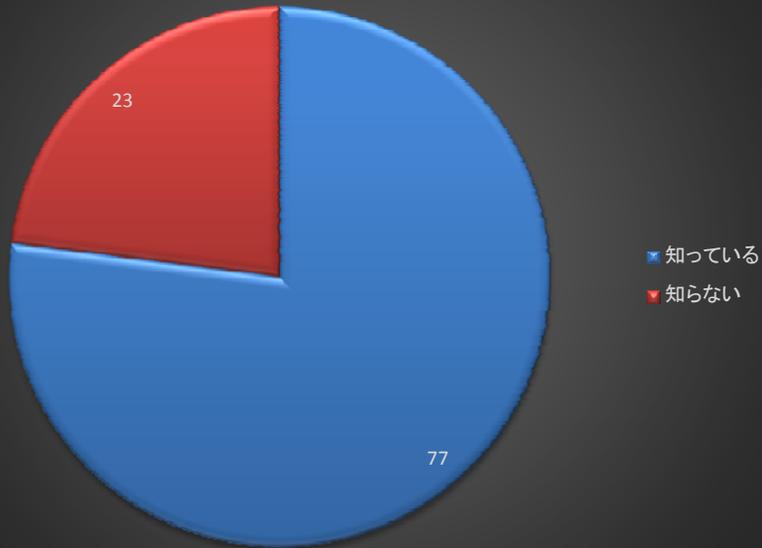
多数が勉強できる環境にあるが、多忙によりその環境にないものも少数いる。

研修会に参加できる環境

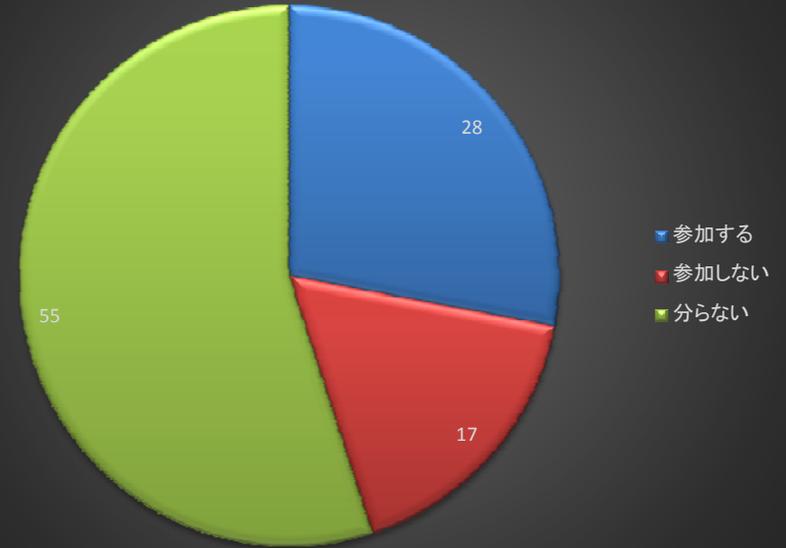


多数が参加できる環境にあるが、育児中は参加しづらいようだ。

救理の活動内容



救理の活動に参加



救理の活動は70%以上が知っているが、その活動に参加してみようと思うものは30%以下となっている。

【考察】女性技師の働きやすい職場環境の問題と課題

所属長編

代替要員確保について

育休中2/3が代替要員を確保できておらず、探しても見つからない、補充が認められない、確保できても慣れたところにやめることになる等の理由が挙げられた。2/3の所属長が技師会の人材バンクを望んでいるが、上記理由から現実に利用するのか、現在離職中の技師がどれだけバンクに登録するかは未知数である。したがって以上のことから現状は代替要員確保は難しい状況である。

女性技師のメリット・配慮・要望

多くの所属長は女性技師の存在に業務上のメリットがあると感じ配慮しながら現状を維持したいと望んでいるが、一部の女性技師には不満もあり個別のマネジメントが課題となっている。

女性技師編

年代構成

女性技師の年代構成をみると、20代30代が75%を占め2000年にMMG検診が導入された時期と一致する。時期的にMMG検診業務のために採用された女性技師が多いと推察される。

救急当番

90%の女性技師が日当直やオンコールの救急業務に従事している。一方で女性用当直室はほとんどなく、女性用更衣室は半数しかなかった。当直時など女性技師のための環境整備が必要となる。

業務の満足度

MMG業務が優先となり他のモダリティに携わる機会が少ないと感じる女性技師がいる一方、所属長からはMMGだけでなく他のモダリティにも取り組んでもらいたいと要望されている。MMG専任に対する使命感はあるが、専任しながら他のモダリティを深く理解するには多少無理があると感じている。

女性技師編

育休取得状況

育休期間は1年未満が主であり、背景には代替要員の確保が困難、収入減が考えられる。
代替要員確保の有効な手立てが今のところない状況である。

業務配慮

力仕事や家庭の都合の休みなどで配慮されていると感じている。一方同じ業務内容、業務量で特に優遇されているわけではないと感じている人も多い。妊娠中はポータブル、イメージ業務から外れたり、救急当番から外れるなど配慮され感謝している。

職場の研修環境

多数が研修会への参加を希望しており参加できる環境にあるが、育児中の女性技師は参加することが困難で、託児できる研修会を望んでいる。

救理について

女性技師の認知度向上に有効とする一方、活動が一部の人で行われているのではないかと、研修会や技師会活動の交流で十分など否定的意見もある。救理の今後の活動は企画研修の広報の仕方や女性技師が求める企画内容の吟味が必要と感じる。

【まとめ】

アンケートから

- 代替要員確保
- 環境整備
- 個々のマネジメント
- 託児できる研修会の企画



更に 意見の吸い上げ
発言力を上げる
女性管理職の増加 が望まれる

所属長自由記載（その1）

Q. 代替要員を確保しなかった、確保できなかった理由は？

- 女性技師がいなかった
- 助手と医師で最低限の必要業務を実施した
- 現有人員で行うことになっている
- 代替要員が見つからなかった
- 仕事に慣れてもらったころ育休が終わる
- 必要な時は他センターに派遣要請
- この地域に代替え職員がいない

Q. 女性技師がいることのメリットはありますか？

- MMG、HSG撮影
- 受診者接遇にすぐれている
- 女性の患者さんに安心感をあたえられる
- 女性的感覚がある
- 室内の整理、整頓
- MMG検診など女性技師の指定が多くあります
- 患者さんの希望
- MMG撮影時に女性技師でよかったと言われることが多い

Q. 女性技師への具体的な配慮例

- 育児、学校行事などに関して勤務シフトを考慮
- 早朝、残業、休日勤務について
- 女性技師を比較してしまう
- 会話でセクハラに近い発言がみられる
- 産休、育休明け後の、育児、家庭、職場の両立
- パワハラの発言にならないように気をつかう
- 妊娠時の業務配置
- 妊娠時、力仕事の回避、安定期まで内勤
- 勤務時間帯に女性技師が一人以上いるようにする
- 女性技師から特定の男性技師と組ませないでほしいといわれローテーションを配慮している
- ポータブル撮影には入らない。ただしOP後、救急室ポータブルには対応
- 妊娠中以外は配慮は必要ない
- 技師としてのプライドは男性と同等であると思うので特別扱いはいかがと思う
- 女性技師にポータブルを任せると腕力がなく大変

所属長自由記載（その2）

Q. 女性に特に望むことはありますか？

- 女性だからという事についてはない
- MMGを女性技師だけで担当しており、それだけに興味を持っている技師がみられるが、他のモダリティにも興味をもってもらいたい
- 女性特有の優しさが必要となることがある
- 母性保護に関することは別だが、女性技師という理由だけで業務を拒むのはしないでほしい
- 気分のばらつきをなくし素直に撮影してほしい

Q. 救理（女性部会）の活動等で何かご意見、ご要望がありましたらお書き下さい

- 産休、産休明け復帰時に、心理面でのバックアップ（情報交換等）
- 大変でしょうがこれからは女性が世の中を引っ張って行くのです
- 活動があまり見えてこないので広報活動や社会奉仕活動などPR等積極的にアピールしてほしい

女性技師自由記載（その1）

Q. 技師として待遇に男女の差を感じますか？

- 休日の日直勤務で、男性は時間外手当、女性は振替を取る
- 月曜のポータブルは件数が多く男性が行っている
- 家庭の都合で休み等多くなりがちなので、それに関しては女性だからということで優遇されているように思う
- 給与の支払い形態がすでに男女差のあるものになっている
- マンモグラフィなどを行っているが、他のモダリティの知識や技術も男性技師と同じだけの技量を求められる
- 力仕事やOP室イメージ、ポータブルなど代わってもらうことが多く申し訳なくありがたく思っている

Q. 仕事内容について感じていることを、出来る範囲で記載してください

- 秋田県民のがん死亡率減少にむかって、使命感にもえている
- 人手が足りないときでも、助け合っている
- MMG検診は女性技師が対応しているので少しでも役立っていると思う
- 仕事を覚える段階なので、満足かどうかは考えていない
- 仕事内容を制限されることなく、さまざまなモダリティを操作している
- 一人職場で休暇のやりくりが大変
- 一人職場のため、まれな症例の患者さんがいる場合意見を求める人がいない
- 女性技師3人で年間3000件を超えるMMGをこなしており、他のモダリティに携わる機会が少ない
- MMG業務が優先となっていまい、他の業務にもっと関わりたいと思うがなかなか出来ない
- 通勤や子育て、転勤などが理由で、治療など長い間安定して使える人材とは見てもらえない
- 独身でも、その後の結婚、出産があると考え、なかなかつけないモダリティーがある
- 総合病院なのでいろいろな検査に立ち会うことができている
- 血管系（脳外科や循環器科系など）も仕事として（モダリティとして）できればよいと思う
- 医師が減って特殊な検査などが少なくなっている

女性技師自由記載（その2）

Q. 女性技師ならではのメリットはありますか？

ある

- 女性技師で良かったと声をかけられる
- ポジショニングをとるさい女性技師であることが、受診サービスとなっている
- 女性患者さんに対応する時、嫌な顔をされない
- MMG、MRマンモなどは女性技師で良かったと喜ばれる
- 患者さんの体に触れたりする場合セクハラととられない、ソフトな印象がある
- 女性目線で、患者さんと接することができる
- 女性患者さんから必要とされていることを直接感じ取る事が日々ある
- 当院はマンモグラフィーは女性技師しか撮らない方針になっているため、勉強の機会が多く与えられていると思う
- 密室のような検査室内での検査でも不安や恐怖を与え難い

ない

- 待遇として特に男女の差を感じることはない
- 働く環境は同じ
- 対等な立場である
- MMG等負担が多い
- 同じ業務内容、業務量で特に優遇されているわけではない

女性技師自由記載（その3）

Q. 女性患者が女性技師を望むと思われる検査に関して何か対応していますか？

- MMGは女性技師だけで対応
- 着替えの介助は出来るだけ女性技師が対応
- MMGは検査前に希望を確認（女性技師・男性技師）し対応
- HSGは女性技師が対応
- 乳腺MRIのポジショニング
- 女性技師の希望があった時に対応している（MMG、MRマンモ）
- 女性技師を希望した患者さんには、他のモダリティを担当していても対応する
- 女性技師だけでローテーションを組むのが難しいが、女性技師希望の患者には出来るだけ対応している
- 若い方や、ドックの方は出来る限り女性技師で対応している
- バスタオルや検査着を活用し、言葉もたくさんかけるようにしてなるべく不安感を与えないように心掛けている

Q. 妊娠中に業務内容を考慮してくれましたか？

- 力仕事の免除
- 検診車での放射線業務の免除（内勤）
- ポータブル、イメージのローテーションから外れた
- 当直業務から外れた（妊娠7ヶ月から）
- 一般撮影で介助が必要な時交代してもらう
- 妊娠中、長期の病欠に対応してくれた
- 土曜日、祝祭日の勤務を外してもらった
- 体調が悪い時、休憩時間をもらった
- 透視業務や、MRIなど体調にあわせて配置してもらった
- 透視業務（ope室イメージ・アンギオ・心カテ）、ポータブルから外してもらった
- 立ちっぱなしの業務はなるべく減らしてもらった
- 胃透視など座っての検査を主体にってもらった

Q. 仕事をする上で、勉強できる環境にありますか？

ある

- 忙しくてもやるきがあればできる
- 勉強しないといけない環境にある
- 予約が終了した後、時間がある
- 周りのスタッフの影響が大である
- 業務が落ち着いている時、当直時に勉強ができる
- 定時に仕事が終わることが多く、十分に勉強ができる
- 法人として、個人の知識、技術の向上は課題の一つになっている
- 空いた時間は自由に勉強にあてることが出来る
- 周囲で勉強している技師を見て、刺激を受けることができる
- 装置が充実しており、勉強しようと思えばできる環境にある
- 残業等多くないので、勉強時間は確保できる
- 検診業務なので、繁忙期を過ぎると業務に余裕があり、更新試験や発表等ある場合はできるだけそっちを優先してもらっている
- ニッチ学習可能
- 自分自身で勉強する分には少しの時間があればできると思う
- 放射線科で積み立てをして本や参考書を購入している
- 書籍が充実しており、上司に聞いたりも比較的できる時間、環境にある
- さまざまな検査を行っているから

ない

- スペースがない
- 配置が日替わりのためスキルアップしづらい。日々に振り回される
- 日常業務が多忙のため時間をつくれない
- そういう雰囲気ではない
- 患者さんの撮影、検査は勤務時間内はずっとあるので技師室に下がって落ち着いて勉強などすることはない

Q. 救理について何かご意見がありましたら、お聞きください

- 女性技師がいるということの認知度が低い、もっと知ってもらうためには有意義
- 会員の集まりが良くないようでしたら、存在しなくてもよいと思う
- 勉強会や技師会の活動もあるので、その時に交流できるのではないかと思う
- 女性同志がんばりましょう
- 救理に入ったつもりでしたが、連絡がなく疎遠になってしまった
- 女性技師が多くなっている今、その存在意義を感じない
- 職場の先輩が参加していないので、参加しにくい
- 各施設、病院からもっと積極的に参加して頂ければと思う。また、他施設との交流は良い刺激になります
- 子供の行事、スポ少などでなかなか参加できておらず申し訳ありません
- 先輩が退職して以来縁遠くなった。活動でお手伝いできる事があったら声をかけてください
- いつも同じ人しか活動していない
- 必要ないと思う。活動内容は技師会でやるべき
- 活動に参加できていないので内容がわかりません。今後行事をチェックして参加できるときはしてみたいです
- 参加中子供を預かってもらえる、子供と一緒に参加できるものであれば活動に参加できる
- しばらく参加せずすみません

Q. ご意見、ご感想、技師会に対する要望

- 育児休暇は取るべきと思う。子育て期間はかなり大変になるので育児に専念できる期間に体力も愛情もチャージしておくことは子育て期間を乗り切るうえで非常に有用
- まだまだ女性の少ない職種なので、理解を得るのは難しいところも多くあります
経験のある女性技師さんにもっと発言していただき、職場の環境を良くしてもらいたい
私自身後輩の女性技師が出来た時には出来るだけ力を貸して、助けてあげられるような技師になりたいと思います
- 研究会など、託児所は無理だとしても子供が居れる部屋が一つあり利用できるなら助かります
- 技師会からのアンケート調査の時も感じますが、組織体系の職場とは異なり個人のクリニックでは返答ができない質問があり、提出をためらうことがあります
- 研修会勉強会などの企画運営いつもお疲れさまです